

みんな（児童・教職員・保護者・地域）で
創る学校を目指して

～コミュニティ・スクールの取組を中心に～



熊野町立熊野第三小学校

はじめに

【目指すコミュニティ・スクールの姿】

児童・教職員・保護者・地域と共に創る学校文化

【具体の姿】

- ◆学校が「触れ合い」「憩い」の場に
地域と教職員，児童，保護者が互いを知り合い，関係を主体的に深めている。
- ◆「子供主体」の豊かな教育活動の展開
地域資源（ひと・もの・こと）が教育活動へ活用・参画されている。

発表の流れ

1. 取組の過程

- ★1年目（令和2年度：学校運営協議会がスタート）
- ★2年目（令和3年度：生活科・総合的な時間における地域資源の活用）
- ★3年目（令和4年度：校内にCSルームを設置）

2. 今年度の取組

- ★4年目（令和5年度：「CSルーム」の活用を取組の焦点に）

3. 今後に向けた取組

1. 取組の過程 ★1年目（令和2年度）

令和2年度

学校運営協議会がスタート

学校運営協議会って・・・!?
“手探り期”

1. 手探り期

取組内容

- (1) 学校教育活動に対する意見・改善策について
 - ・学校運営協議会の趣旨説明, 会長・副会長の選出, 学校経営基本方針の承認, 上半期・下半期の教育活動の報告・評価
- (2) 教育活動に地域の力をどう生かすかについて

課題

- ・学校評価が中心⇒当事者意識の希薄
- ・構成員の偏り⇒多様な意見が出にくい。熟議が深まらない。

課題解決に向けて

- (1) 多様な視点での熟議⇒構成メンバーの見直し
 - ・学識経験者, 保護者代表の参画

1. 取組の過程 ★2年目(令和3年度)

地域に根差した魅力ある
教育活動を展開したい!
“地域の力を学校に”

令和3年度

生活科・総合的な学習の時間における
地域資源の活用

1. 地域の力を学校に

取組内容

(1) 地域資源(ひと・もの・こと)の発掘

- ・「こんなことをしてみたい!」「こんな協力をお願いしたい!」に対するアドバイス
- ・研究主任がアドバイスを集約 ⇒各学年の授業実践に活用

だれに,どんなことを,
どんな方法で教えてもら
うとよいですか。

第2学年 ときどき わくわく まちたんけん

貴船神社にはクワガタやカ
ブトムシもいますよ。

川では、水質検査を毎年行っている
ので、熊野町の生活環境課に問合
せてみるとどのような生き物が生息
しているかも分かるはず。

熊三小の図書館には、図鑑のよ
いものが沢山あります。まずは、
どんな生き物がいそうかを調べ
てから、採取に行くのがいいと
思います。



1. 地域の力を学校に

学校運営協議会で
委員の方にインタ
ビュー(5年)→



←町の防災安全課の
方の案内による防災
交流センター見学(4
年)



インタビュー、 現地見学による情報収集



筆の里工房見学(3年)



地域のケーキ屋さん見学
(2年)

ゲストティーチャーによる 出前授業



1. 地域の力を学校に

成果

少しずつ
動き始めた!

- ・構成メンバーの見直し ⇒ 多様な意見による熟議の広がりや深まり
- ・地域資源(ひと・もの・こと)の発掘 ⇒ 教育活動に広がりや深まり

課題

- ・組織体制や役割分担を整えるにはまだ、時間が必要。
- ・当事者意識は、まだまだ希薄。(教職員も含めて)
- ・CSの取組に熊三小らしさがあるか。

課題解決に向けて

- ・CS担当を校務分掌に位置付ける。

1. 取組の過程 ★3年目(令和4年度)

学校を「触れ合い」「憩い」の場に!
“試験的運用”

令和4年度

校内にCSルームを設置

1. 試験的運用

CSルーム設置のきっかけ

熊野町主催CS研修会での協議



教職員

話したい！
もっと知りたい！！

地域の方

1. 試験的運用

「熊三コミュニティルーム」(仮称)の開設に向けて ~準備・計画編~

時期	動き
8・9月	○設置目的等考案(教務→企画)
10月	○設置目的・取組の共有化 ・教職員→職員会議 ・地域・保護者→第2回学校運営協議会 ○設置に向けた思いの共有化
11月	○環境整備(教務部)

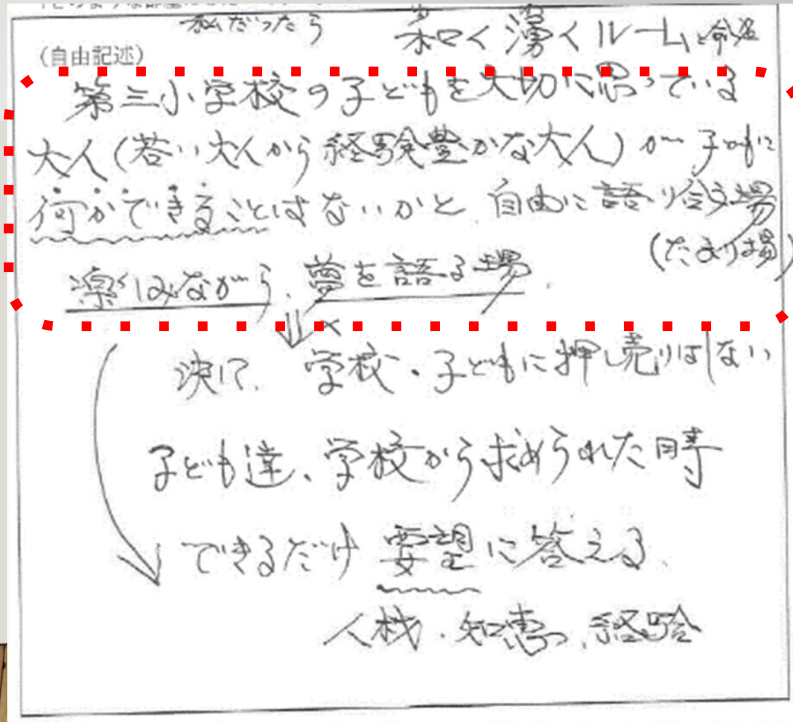
・どのような部屋にしたい？
・どのようなことを学校でしてみたい？
・どんな名前の部屋がよい？
・その名前に込める思いは？

1. 試験的運用

「熊三コミュニティルーム」(仮称)の開設に向けて ~準備・計画編~

・学校運営協議会委員の方々の
自主協議

※11月1日公開研究会後



1. 試験的運用 1回目の開放週間の様子

「地域の方と子供たちの
触れ合い」を目的に、
開放週間の試行

先生やふだん遊ばない他の学年
とも遊ぶことができた

地域の人と仲良くなると、助け合いが
できそう

地域の人と交流できて
楽しかった

1回目の開放週間

11月28日(月)~12月2日(金)
大休憩(10:10~10:30)

1. 試験的運用

「熊三コミュニティルーム」(仮称)の開設に向けて ~事後編~

・アンケートの実施

児童の意見の把握, 教職員の意識調査, 地域の方の意見の把握



・2回目に向けて修正・改善

人数の制限 ⇒ 縦割り班の活用

交流目的・相手の再確認。活動場所の追加。

地域・保護者への発信 ⇒ 学校だより・学年だより

コミュニティボードの活用

1. 試験的運用 2回目の開放週間の様子



先生と一緒に遊べた
(児童)

地域の方とつながる
ことができた
(教職員)

地域の人にやさしく
教えてもらった
(児童)

先生とたくさん話す
ことができた
(地域の方)



1. 試験的運用

「熊三コミュニティルーム」(仮称)の本格的運用に向けて

(1) 本格運用に向けた共通理解・方向性の確認

教職員 → 職員会議

地域・保護者 ⇒ 第3回学校運営協議会

・名前の決定 ⇒ アンケート投票 ≪児童・教職員・保護者・委員(11/1に決定)≫

・R5の方向性 ⇒ 部屋を広くする。

⇒ 児童と地域の方のふれあいの場は継続

⇒ 教職員と地域の方のふれあいの場の試行

(2) 目指す子供の姿の具体化・共有

3月8日(水):15:20~(委員と教職員で)

(3) コミュニティルームの名称決定に向けて

教職員 ⇒ 熟議 保護者 ⇒ アンケート

1. 試験的運用

成果

- ・校内にCSルーム設置
- ・本格運用に向けた共通理解・方向性の確認
- ・目指す子供の姿の共有

課題

- ・コミュニティ・ルームの運用
- ・保護者の参画
- ・当事者意識は、まだまだ希薄。(教職員も含めて)
- ・CSの取組に熊三小らしさがあるか。

課題解決に向けて

- ・学校の特徴を反映 ⇒ 学校運営協議会委員に校区の園長先生を選出

2. 今年度の取組 ★4年目(令和5年度)

学校を「触れ合い」「憩い」の場に!
“本格的運用”

令和5年度

「CSルーム」の活用を取組の焦点に

2. 本格的運用 4者会議の様子



「熊三ファミリールーム」(児童)
来た人みんなが家族のように
触れ合えるように

「くま3・SUN ルーム」(教職員)
熊三に明るい陽が昇るような暖かい
部屋になるように

「和く・湧くルーム」(学校運営協議会)
第三小学校の子供を大切に思っている
大人が、子供たちに何かできることはな
いかと自由に語り合う場になるように

「くま三ひろば」(保護者)
いろんな人に認知しやすく馴染みやすい
のが一番だと思い、シンプルな名前に

CSルームの呼び名

大人達 ↔ 子ども達

一方通行でなく、
双方の思いを込めたい。

“家族のつな”

くまSUN和く・湧くファミリールーム

決定!

サン ワクワク くま SUN 和く・湧く ファミリー ルーム

名前に込められた思いは・・・

「教職員・児童・保護者・地域の方が**家族**のように**和**になって、熊三小のことを**自由に語り合える太陽**のように温かい部屋になるように！」

2. 本格的運用

取組内容

(2) 6月からCSルームの定期運用開始



地域の方や
先生との関わり



児童同士の関わり



2. 本格的運用

取組内容

(3) 地域の方と教職員との寄合の場の設定

・月1回程度、開放週間最終日の15:30-16:00

寄合＝地域・保護者の方と
教職員との語りの場

もっと広報に力を入れる必要
がありますね。

一度入ってしまえば

門が閉まっていると入りにくい・・・

2. 本格的運用

取組内容

(4) 教育活動の振り返りと改善方策の熟議

テーマ「1学期の分掌の振り返り」

① 1学期の振り返りの実施

各分掌⇒ 企画委員会⇒ 職員会議

②各部の1学期の振り返りをもとに、各主任、学校運営協議会委員、
管理職とて成果と課題、改善策を熟議

7月20日(木) 終業式後 14:15-15:15に実施

2. 本格的運用

見えてきた課題

- ・来校者の偏り・減少
- ・CSの取組が、保護者や地域の方にまだ認知されていない。
- ・地域の方と教職員の寄合の停滞
- ・CSの取組に熊三小らしさがあるか。



2. 本格的運用

課題解決に向けて

(1) 学校行事にCSの取組を取り入れる

- ・教務部・生徒指導部が連携して内容を検討

⇒ 学習発表参観日「くまSUN和く・湧くファミリーデー」の実施

⇒ 内容

第1部 全校児童で行う音楽表現

合奏「最強無敵のくまSUNファミリー」

合唱「世界が一つになるまで」

第2部 各学年・学校運営協議会委員・PTA本部役員によるブース運営

縦割り班でのスタンプラリー

くまSUN和く・湧くファミリーデー 第一部の様子

ニ、クラスを超えて

みんな仲良しだよ

笑顔 いっぱい

元気の限り 心やさし

ラララ くまさんの子

自ら 磨くよ

くまSUNファミリー

一、壁を越えて
ラララ 強くなるぞ
ゆくぞ くまさん
力の限り 心やさし
ラララ くまさんの子
自ら 鍛える
くまSUNファミリー

6年生が熊三小の児童のことを想って作詞しました。
♪最強無敵のくまSUNファミリー♪

くまSUN和く・湧くファミリーデー 第二部の様子

ブース運営
スタンプラリー



3. 今後に向けた取組

取組内容

- (1) 来校者の増加・多様化に向けて
 - ⇒ 学習活動への協力依頼(学校教育活動への関心・理解)
 - ⇒ 6年生の総合的な学習の時間の取組と関連
- (2) CSの取組の認知に向けて
 - ⇒ 正門用幟の作成(地域への周知)
- (3) 地域の方と教職員の寄合の活性化
 - ⇒ 3学期に活動を共にしながら(地域人材の活用)
- (4) 児童主体のCSへ
 - ⇒ CS委員会の立ち上げ(児童主体の,より専念した活動)



おわりに

教職員・児童・保護者・地域の方が家族のように和になって、熊三小のことを自由に語り合える太陽のように温かい部屋になるように！

ご清聴
ありがとうございました。

